

今月の御教え

わが子のかわいさを知って、神が人間をお守りくださることを悟れよ。

……「天地は語る」第六条……

解説

先月同様、この御教えも天地の親神様の「私達人間が、いとおしく可愛くてならな解い」の御思いを現わしたものであります。そして、その御思いをわからせて頂くには、親の子に対する思いが手掛かりとなるのであります。そのことで思い出されるのは、今から二年前の連合会・信心共励会の講師・的場先生の講話であります。それは、ご長男が妻と幼子を残して職場で過労死されたのですが、先生はその親孝行な家族思いのご長男を七くした辛くやるせない悲哀を通して、改めて親神様の私達人間に対する深い御思いを知らされたとの事でありました。わが子のかわいさを知っている人は世間には限りなくいますが、そこからこの様に親神様の慈しみの御心を悟らせて頂くには日々の不断の信心の稽古、精進がなくてはできません。

然るに来年は本教の立教百六十年、西条教会の二代教会長先生・三十年、夫人・十五年の記念すべき御年柄であります。共々に信心の稽古に勤しみ親神様の深い御心を分かせて頂きたいものであります。